赤ちゃんの四季（58）　平成27年夏

人は、いつまで反抗期？

人には、反抗期が2回あるといわれています。一回目は２歳から３歳のころで、子どもが産まれ、育児にも慣れ、少しは楽になるのかしらと思ったときに、あれもこれもイヤイヤと駄々をこね、言うことを聞かなくなりなるのが第1次反抗期、「魔の2歳児、terrible two」と世界共通で呼ばれるものです。

二回目は12歳から15歳ころ、ちょうど思春期の時期です。親が何を言っても拒否、無視し、自己主張が強く、悪いことをしても素直に謝りません。

いずれの時期も、身体や脳が急速に発達、成長する時期です。自我に目覚めた子は、親や周りの人との折り合いのつけ方が分からずに、悩んだ末に反抗的態度に及んだものと言えます。小児科医は、「反抗は子の成長の証、喜ぶゆとりをもって見守るように」と、親に告げます。子どもが社会的にみて問題ある行動をとりそうなときには、世間体を気にして自分の子どもの行動を頭ごなしに否定したり、事を荒げないように父親や学校に子どもの問題行動を隠さないことです。親のこの態度が、より深刻な事態を引き起こします。

これら反抗的行動は、どの子にも同じように現れるのではなく、成長とともに自然になくなります。幼児期、思春期を通じて全く手のかからなかった子が、大人になって突然、豹変することも珍しくありません。いまの世相は、これまで日本人が大切に育んできた「社会的規範」が、国の「改革」の妨げとなっていると、まず改革ありきの時代です。「改革」の先をしっかりと見定めずに「改革」を叫ぶ大人の姿は、まるで反抗期の子どものようです。将来に禍根を残さないように、まわり人々や国々との調和を大切に舵取りするのが大人の役割です。